



第17回

ブルーメール賞

月刊神戸っ子

選考座談会〈音楽部門〉

叙情性豊かなピアニストの 青井彰に――

★次回に期待したい中筋栄一

柴田 昨年に引き続き、一般的に活発に活動をしている人が少ないですね。これといった人がいない……。

出谷 前回も名前を出したんだけど、神戸コンサート協会の中筋栄一。地元において、単なるマネージメント業だけでなく、永年プロデュース活動が続けてきた功績をほくは評価したい。

小石 “縁の下の力持ち”というタイプだね。そろそろ評価してあげたいという気はするが、今年は特に目立った活動というのはいない。賞の性格上該当者に当てはまらないのでは……。

★人材不足の音楽部門

柴田 大前哲（作曲）は？

小石 昨年は「現代の波」のみで、新しい作品は出していない。名古屋フィルの指揮者、岡田司は、名古屋フィルできびしいオーディションの中から選ばれた有望株ですよ。

出谷 彼はダークホース的でただ残念なのは大阪と名古屋中心の活動が多く、地元神戸では知名度が少ない。

小石 まあ指揮者っていうのは、声楽なんかと比べると息が長いからね。去年は神戸でオペラをふって好評を受けたし、これからでもチャンスはある。

選考委員



〈音楽評論家〉
出谷 啓



〈音楽評論家〉
小石 忠男



〈音楽評論家〉
柴田 仁



'87年、1月に行われた田嶋ホールで青井彰の演奏風景

出谷 鈴木雅明(オルガン)、坂本恵子(ピアノ)、田中修二(ピアノ)あたりが若手で将来期待できる候補と言える。

柴田 テレマン室内管弦楽団との協演で、フルートコンチェルトに意欲的な吉岡美恵子。それに前衛的なオペラグループ、アラ・ディ・コウベも挙げたい。

出谷 ほかに声楽という小村亮三ぐらいだが、昨年のリサイタルはもう一つだった。うまくはなっているが、音量がだんだんなくなってきている感じ。日本の歌手

は、生命が短かいよ。

小石 範囲を尼崎まで広げるならば、メゾソプラノの荒田祐子がいる。大変な美声の持ち主なので、これからの活躍も十分期待できると思う。

出谷 しかし、昨年何か新しく実績があったかを考えると……難しいところだな。

こう挙げてみると、帯に短かし、たすきに長しですな。年齢的にも幅が広い。

柴田 ピアノの青井彰は昨年田嶋ホールでもとても良い演奏をしました。彼はコンサートの度に上手くなっている。

出谷 該当者としては、若すぎてしまふけれど細儀文(声楽)もいいものを持っている。

それに昨年ライオンズクラブ音楽賞を受賞し、その記念リサイタルを開いた右近恭子(ピアノ)といったところかな。

★コンサートのたびに成果をあげている青井彰に

柴田 私は昨年一月に行われた田嶋

ホールでの青井彰の成長を評価したいと思う。シューベルトやシューマンの叙情的な曲が得意で、これからも期待できる。

小石 実績上でも、全国各地で随分リサイタル活動をしていますね出谷 性格的にも目立たないタイプの人なんだけれど、ピアノが好きだというのが観客に伝わってくるような演奏だ。

柴田 今年も宝塚バガホールをはじめ、精力的に活動の予定があるとか。有望株の彼を受賞者ということで決定しましょう。

出谷 しかし、関西はまだまだ若い音楽家が少ない。どうしても学校、リサイタルの場が首都へ集中してしまうのが問題だろう。

柴田 そうですね。そういう意味でも神戸をはじめ地方はもっとアーティストの育成に力を注ぐべきだと思いますね。〈文中敬称略〉

●受賞者メモリアル

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. ピアノ/田原 富士 | 9. ピアノ/山内 鈴子 |
| 2. 合唱指導/矢野恵一郎 | 10. 声 楽/松本 幸三 |
| 3. バレエ/上月 倫子 | 11. ピアノ/伊藤 ルミ |
| 4. バレエ/今岡 頌子 | 12. 声 楽/井上 和世 |
| 5. 音楽評論/小石 忠男 | 13. プロデュース/末広 光夫 |
| 6. 作 曲/中村 茂隆 | 14. 声 楽/安芸 極子 |
| 7. ピアノ/関 晴子 | 15. 指 揮/延原 武春 |
| 8. 声 楽/坂本 環 | 16. 指 揮/中西 覚 |



第17回
ブルーメール賞

月刊神戸っ子

選考座談会へファクション部門へ

K.F.C. 地元と組んだ15年の歩みに
〈神戸ファクション〉
〈クリエーターズ〉

★一つの節目を感じさせた

昨年のファクション業界

小泉 神戸ファクションフェアが

15年で区切りをつけましたね。

荒津 K・F・Cは15年間よく頑

張って来られましたね。

藤本 地場産業と連携して来たとい

うことは、評価すべきでしょう。

福富 西脇の播州織へのK・F・C

の働きかけは、大変意義のある

ものでしたからね。

藤本 実験的にK・F・Cが仕掛

け、大変注目を集めたのですから。

小泉 同時にファクションデザイン

コンテストが開かれました。

福富 若い人のアイデアはなかなか

よかったですね。

小泉 藤本ハルミのショーが、昨

年は2回開催されていますね。

藤本 東京プリンスホテルでのシ

ョーには、神戸の方が東京の方を

たくさん紹介してくださり、外国

の方も大勢来てくださいました

し、昼・夜、思いがけず盛会で、

やりがいがあったと思います。

大阪プラザホテルではフロアシ

ョーという形だったので、舞

台との違いや、それぞれの良さが

分かり、勉強になりました。

小泉 大里最世子が昨年も楽しい

ショーを見せてくれましたね。ニ

ットの手編みサロンの市野木江充

子が、生徒たちによるショーを開

藤井美智子は昨年、シルク地、浴衣

の洋服のショーを開いています。

荒津 但馬ちりめんにも注目をし

て、洋服を作る研究をしています

よ。同様に、中島正義は紳士服の

仕立てを試みています。

小泉 K・F・Aの発案で「ファ

クションショー」に替わって「フ

クションパーティー」が開かれま

したが、盛況で、若い世代はおしゃ

れですね。ただ、私は、市民とK

・F・Aとの接点がなくなっただん

じやないかと残念な気がします。

藤本 私は、社交の場の少ない日

本で、あのようなパーティーはい

と思う。けれども「ファクション」と名付けるならば、ジャヴァ



西脇のコットンを使ったショー風景

グループの今年はこれ、ワールドはこんな服というように若い人がファッションを競わないと。メーカーが社員に着せるんですよ。会社のパーティになっていいと思う。それと感じたのは、男の子のお洒落。それに比べて女の子はよくなかった。"ファッション"と名が付いているんだし、一線越えたお洒落をして欲しかった。

荒津 第一回でしたから"迷い"もあったのでは。私自身、今度は蝶ネクタイにしよう"と思いましたが。そういう意味では意義があったんじゃないでしょうか。

★51年の歩みを評価して

K・F・Cに

小泉 ファッションタウンの社屋は、どこも素晴らしく外国へ行ったようにですね、川上勉のオールスタイル"モードピア"は新谷透紀

さんの10体の彫刻がシンボリックで建築環境賞は嬉しいですね。又、建築文化賞をユーハイム、アバン、大月真珠が受賞しています。

荒津 そういう場所です。ファッションショーをする工夫ができないでしょうか。やってほしいですね。

小泉 例えば、スポーツ課があるのですから、神戸市に"ファッション課"を設けて、ショーも何らかの形で続けて欲しいですね。では、今年の賞ですが、市のファッション都市宣言から15年間、続けて活動して来たK・F・Cに贈るということでしょうか。

荒津 私もそれがいいと思います

藤本 地元注目し、継続して仕事をするのは大変なことです。

福富 今後の活躍にも期待したいと思います。

△敬称略▽

●受賞者メモリアル

1. 服飾デザイナー/藤本ハルミ
2. 神戸市中心障害福祉センター/米田 博司
3. ニットデザイナー/市野木江充子
4. コウベジュニアテラーズクラブ/KLTC
5. アートフラワー/太田 タマコ
6. コウベファッションソサエティ/K.F.S.
7. パール/「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具/神戸市家具青年部会
9. コウベファッションモデルリスト/K.F.M.
10. 書道家/望月美佐

選考委員



<本誌 副編集長>
小泉美喜子



<神戸港ドレッシング社 代表 荒津 正美>



<デザイナー>
藤本ハルミ



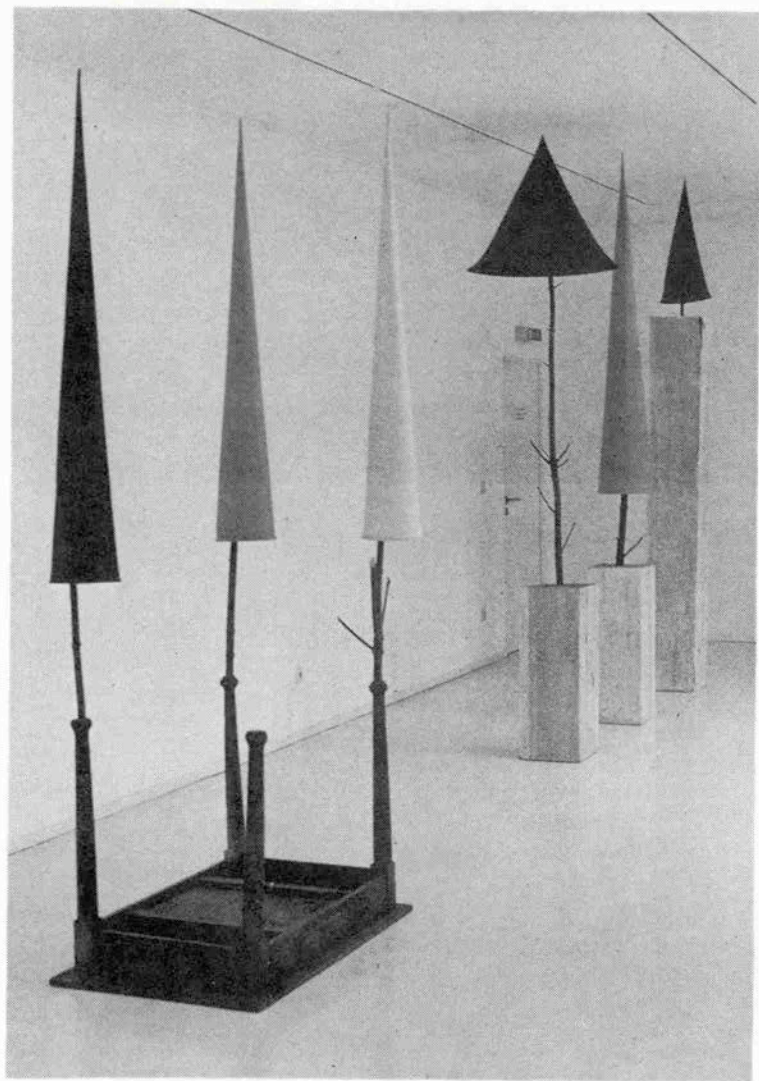
<神戸ドレスメーカー学院 院長 福富 芳美>

躍進をつづける明日の神戸を創る

ハイカラ神戸の伝統に

オリジナルな創意を加えて

21世紀の神戸の発展をめざします――。



作品／植松壺二

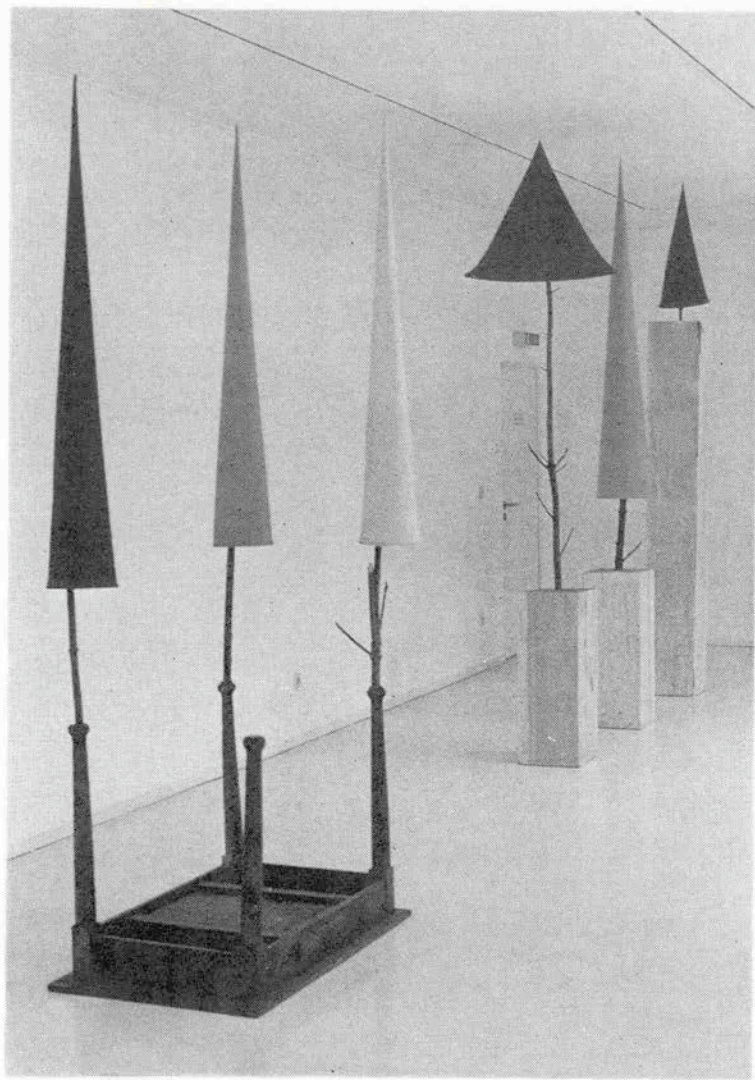
<p>自民党兵庫県連会長 衆議院議員 砂田重民 神戸中央区下山手通二一三三三 林第一ビル4階 電話〇七八三三二一三三三三</p>	<p>自民党副幹事長 衆議院議員 石井一 神戸市中央区北長狭通四一一一十二 電話〇七八三三二一九〇七 九〇一八</p>	<p>神戸地下街株式会社 取締役会長 宮崎辰雄 取締役社長 長島隆 神戸市中央区三宮町一一〇一一 電話〇七八三九一四〇二四</p>	<p>アーバンライフ株式会社 取締役社長 廣瀬吉彦 大阪市南区南船場四一四一三 電話〇六二四四一〇一一</p>	<p>株式会社ワールド 代表取締役社長 畑崎廣敏 神戸市中央区港島中町六一八一 電話〇七八三〇二一三二二</p>
<p>株式会社ラジオ関西 取締役社長 山崎進 神戸市須磨区行幸町一一一六 電話〇七八七三二一四三二四</p>	<p>株式会社 ホテルオークラ神戸 神戸市中央区波止場町四八番地 メリケンパーク 電話〇七八三三三三〇一一</p>	<p>株式会社 木下眞珠 代表取締役 木下章夫 神戸市中央区山本通一一七七一 電話〇七八二二二一〇四八七</p>	<p>森真珠株式会社 代表取締役 森隆 神戸市中央区中山手通一一四一〇 電話〇七八二四一一二二五</p>	<p>株式会社ノーリツ 代表取締役社長 太田敏郎 神戸市中央区明石町32番地 電話〇七八三九一三三一九</p>
<p>樽本産業株式会社 代表取締役 樽本久 神戸市中央区相生町四三一一 神戸ストークビル四〇四号 電話〇七八三七七〇六六一</p>	<p>光印刷株式会社 取締役社長 南部圭三 神戸市中央区下山手通二一六一二 電話〇七八三三二一五五一四</p>	<p>横山倉庫株式会社 取締役社長 横山吉雄 神戸市中央区磯上通八一一五 電話〇七八二二二一五三二</p>	<p>旬クレセント・インター ナショナル 代表取締役 王柏林 神戸市中央区布引町一一一三三 電話〇七八二二二一〇七三四</p>	<p>財団法人 井植記念会 理事長 井植貞雄 神戸市垂水区青山台一一二一一 電話〇七八七五一一五二六一七</p>

躍進をつづける明日の神戸を創る

先取の気性に富む先人たちの

伝統を今日に受け継ぎ

21世紀の神戸の発展をめざします——。



作品／植松壺二

エム・シーシー食品株式会社

代表取締役社長 水垣宏隆
神戸市東灘区深江浜町32番
電話(〇七八)四五二一四八二代

株式会社ユーハイム

取締役社長 河本 武
神戸市中央区港島中町七七一四
電話(〇七八)三〇二一〇〇一

株式会社 神明

代表取締役会長 藤尾 豊
神戸市中央区海岸通六一一一〇
電話(〇七八)三七一一二二三

健康充電基地VIVI有馬
新栄開発株式会社

代表取締役 中内 博
神戸市北区有馬町石倉四〇六一三
電話(〇七八)九〇四一〇〇一七

兵庫県技術士会

会長 坂田 元記
神戸市長田区菅原通一六
株式会社坂田技術研究所内
電話(〇七八)五七六一三五五六

神戸おさかな普及協会

代表理事 田中辰夫
神戸市兵庫区中之島一〇一
神戸水産物協同組合内
電話(〇七八)六七二七六〇〇
FAX(〇七八)六七二七七六八

株式会社神戸ニュータウン
開発センター

代表取締役社長 宮岡寿雄
神戸市須磨区中落合二二一
電話(〇七八)七九一七二〇〇四
FAX(〇七八)七九一七七三〇

今西建設株式会社

代表取締役社長 今西恭晟
尼崎市南塚口町一七二二三
電話(〇七八)四二九一五二五〇
大阪市東区北浜五二一一一
電話(〇七八)二二二一三三四四

プロメテウス株式会社

代表取締役 所司原 義久
神戸中央区北長狭通三二一一一八
電話(〇七八)三二一一〇〇〇

東神物産株式会社

取締役社長 富永幹太
大阪市東淀川区菅原二一〇二二八
電話(〇七八)三二九一六一一

ユーコーヒー株式会社
ウエシマ

取締役社長 上島康男
神戸市中央区三宮町一四一九
電話(〇七八)三三二一三九七一

キリンビール株式会社
神戸支社

支社長 直木 純
神戸市中央区御幸通四一一一
電話(〇七八)二五一八二五二四

日用品雑貨卸商社
友藤商事株式会社

代表取締役 友藤順義
神戸市須磨区弥栄台一四一五
電話(〇七八)七九二二〇〇〇四
FAX(〇七八)七九一一五五五五

未生流玉光

家元 谷村晃甫
神戸市須磨区平田町一一一
電話(〇七八)七三五一三二五六

ナニワ印刷株式会社

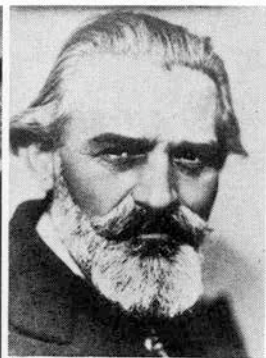
代表取締役 西井雄三
大阪市北区天満一九一一九
電話(〇七八)三五一一七二七一

日仏芸術交流の華

アンジュ・トマージ

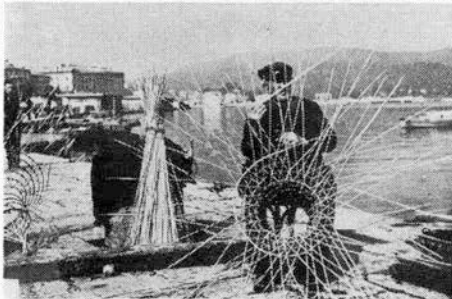
ANGE TOMASI写真展

ナポレオンの生誕地コルシカが生んだ、戦前のヨーロッパ写真界の第一人者



(上)アンジュ・トマージ

(1883～1950、コルシカ島コルト市に生る、現、仏文化・通信大臣の祖父にあたる) 第1次世界大戦前より写真を学び、以後コルシカ島民の生き様を撮り続けた。彼の作品の記念切手は今も蒐集家達に根強い人気がある。日本での作品展は今回の神戸を皮切りに、東京・京都で行なわれた。



(上) 2月3日、オープニングのよう。角卓氏、A・レオタル夫人、J・ルリエール上院議員。
(写真左より)

(左) 作品「アジャクシオの漁夫」

(右) オープニング後、会場でのA・レオタル夫人。



英雄ナポレオン・ヴオナパルトを生んだ小さな島、コルシカ島。半世紀前のこの島の人々の生き様を克明に撮り続けた写真家、アンジュ・トマージの写真展が2月3日から8日まで、そこう神戸店にて開かれた。記録というよりは、むしろ「芸術」。絵画的な美しさと不思議な立体空間の創造性を秘めたモノクロームの世界を、期間中、多くの人が訪れ体験した。



A. レオタール夫人



角 卓氏



山本 副社長

■父アンジュ・トマージを語る

写真展開催にあたり来日した令嬢アントワネット・レオタール・トマージ夫人(化・通信大臣母堂)を訪ね、写真展実行委員会の中心である画家、角卓氏(甲南女子、丹下建三建築設計事務所の山本副社長にも同席いただいて懇談の場を持つことができた。

ニースに始まり、今回でもう10回を超すアンジュ・トマージ写真展のそもその提案者は、彼の孫でありマダム(の令息でもあるレオタール文化・通信大臣であるらしい。現在コルテの宮殿に保存されている約4万点の中から展覧会のたびに選ぶのだそうだ。また、一九八九年には新たな写真集を発行する予定もある。「現在では見られなくなった島民の風習や風俗といった『生活』あるいは、宗教的行事。この2点に重点を置いて企画中です」と話してくれた。当時は、フラッシュや露出計もなかった時代であり「車で父と兄と連れだつて出かけ、周囲の自然条件が整うまで待つのが子供の私には苦痛だった」と思い出も。「娘に厳しい父」であつたそうだが、「写真展会場に飾られた父自身の写真(前頁)の、何か他のものを見つめているような眼差しが好きです」と言いきつたマダムの誇らしげな笑顔が印象的だった。

■パリ、そして神戸：

昨年、6月から約3カ月間、フランスの美術学校「エコール・ド・ボザール」で「丹下建三40年の建築と都市計画の歩み」という展示会が催された。この時の後援がレオタール現文化・通信大臣であつた。

変容するパリ。21世紀の都市を目指して「大統領のグランド・プロジェクト」が次々と進められるなかで、丹下建三事務所が手掛けているのは、パリの東部に位置するイタリー広場の文化センターである。実際のパリでその任務にあたる山本副社長は、フランスの国際性につい



生田神社にて豆まきの行事に参加



生田神社会館で行なわれた「日仏文化交流のつどい」
壇上は貝原兵庫県知事



豆まき姿のA. レオタール夫人をかこんで

て次のように語ってくれた。

「プロジェクトに関係しているのは、殆んどがフランス人以外の外国人です。人種に関係なく優秀な頭脳を投入しようとする姿勢、そして様々な芸術のジャンルが自由に出たり入ったりできる点。そういったものを自然に受け入れられるキャパシティに魅力を感じます。また、機能性以外に隣との関係、つまり都市計画の調和性です。共通の広場を創ることが都市設計の基本にあり常識化しています。きれいな街をつくらうという市民の自覚があるんですよ」

そして、神戸については「新しい文化を築いていくバリエタリティと古い良いものを持った、個性のあるいい街。今回の写真展も東京・京都に先駆けて、まず神戸で開催することに意義がありますね」と。

■オープニングと日仏芸術文化交流へ

2月3日、オープニングである。まず主催者の角卓氏から、'86アンチヴでの角氏の個展がこの写真展に導いたこと、そして「イデオロギーを超えたところに全てを理解することができる、それが文化・芸術である」と、

芸術文化交流の大切さが語られた。

続いてマダム・A・レオタールより御礼の言葉とジャック・ルリエール上院議員からも相次いであいさつが。ヨーロッパアカデミーを代表、出席されルリエール議員からは角氏に勲章が授けられ同時にアカデミー会員に推挙された。

ヨーロッパアカデミーとは、マダム・ダガージョにより一九七九年に設立された研究機関であり、現在は5つの大陸、50カ国にまたがって活動がなされている。数多くの、ノーベル賞を有する諸氏が所属していることから、そのレベルの高さが窺える。

やがてテープカットを終え、父の撮った一枚一枚を静かに見つめるマダム・A・レオタール。コルシカ島から一万キロ以上も隔てた異国の地で父の作品に新たな何かを発見したのだろうか。

独立を克ち取ろうとする政治混乱の中で、コルシカ島を離れようとする人々が多いと聞くが、トマージの残した「美しい島」が決して失われることがないよう遙か神戸の街から祈りを捧げたい。

経済ポケット ジャーナル

★東急ハンズが
三宮にオープン



東急ハンズ三宮店

手作りの店として親しまれている東急ハンズが3月18日に生田神社南側にオープンする。オープンセレモニーでは未公開だが、あっと驚くようなイベントを用意しているとの事。

店内は各フロアとも「スキップフロア」と名づけられた三段階に段差をつけた構造で、また1Fにはイベントホールを設けるなど、空間をふんだんに使って、造られている。メインである商品面では輸入物に力を入れ、他店に比べ約2倍の商品揃えをしている。また、



オリジナルティ性を重視していくという方針から、販売員各自が自ら仕入れを行うという形態や、発想段階で今までと違ったものを入れに入れてゆく。



★ジェ
ルベ新
ルベ本
社社長
ワロ木
口会長
ジェル
ベ巴田
社長
ワール
ド畑崎
社長
ポ
ー
ランド
アイ
ション

タウンの新しい顔として傑出したジェルベの新社ビルが初お目見え。

建築家安井忠生氏の設計は、新しい誕生を意図する「卵」をモチーフとしたもので、ファッションメーカーらしく、色彩感も豊かな表現がなされている。

設立以来17年、新たな発展が期待できる。
■中央区港島中町6-3-1
6 3 0 3 - 1 0 1 1



★第3回「ザ・和食」開催

このところ注目を集めている日本型食生活の優秀さを、さらにPRするため、魚・野菜・漬物・味噌など関係団体が協力して、3月20日(日)午前10時〜午後3時、メリケンパーク内フイツシユダグスホールにおいて、パラエティに富んだイベントを開催する。

今回は'89年フェスピック神戸大会に協賛し、売上の一部が同委員会へ寄付される予定。

■神戸市経済局商業貿易課
3 3 1 - 5 1 4 3

★双胴高速クルーザー就航
淡路フェリーポート(株)建造の豪華クルーザーを神戸観光汽船がチャーター



し、7月から運営から運営する。船内は一流シティホテル感覚の設備が整っており、とても豪華な旅が楽しめる。

■神戸観光汽船
3 3 1 - 0 7 8 5

★KOBEOフイスレディ★ 高木ゆかりさん(24)



かわいい人がいるもんだ。チラと見上げる目線がいい。ほんの少しの恥じらいも、人の心を和ませる。

「スーパードライが好調で、仕事も忙しくて…」と笑う彼女。立教大学の英米文学を卒業し、60年に入社した。学生時代には旅行研究会にも入っていて、ドライブするのが趣味だという。

「お酒はつきあい程度です……」はてさて、これは真実か?

垂水区在住、水瓶座のA B型

〈神戸サヒビル業務課勤務〉

音楽で、神戸を心暖まる。

エンターテイメントテイーに

■座談会出席者（敬称略・五十音順）

安芸 栄子〈声楽家〉

中西 覚〈作曲家〉

伊藤 ルミ〈ピアニスト〉

延原 武春〈指揮者〉

井上 和世〈声楽家〉

松本 幸三〈声楽家〉

北浦 洋子〈ヴァイオリニスト〉



安芸 栄子 さん



伊藤 ルミ さん

“多国籍文化都市”神戸はまさに芸術の坩堝である。先月号で特集した美術のみならず、音楽においても然り。多くの音楽家が神戸を好んで在住していることもあってか、さまざまな国の、さまざまなジャンルの音楽が街の中で鳴り響き、日本でも屈指の音楽都市としてそのシーンは活況を呈している。

今回のキャンペーン座談会は、その中でも特にクラシック界で活躍されている皆様方にお集まり頂き、それぞれの活動の状況や、最近のクラシック界の動向などについておうかがいしました。

音楽は何よりもエンターテイメントであるべきです

——今回は創刊27周年記念号ということもあり、この「国際文化都市神戸を考える」というキャンペーンでも



松本 幸三 さん



延原 武春 さん



中西 寛 さん



北浦 洋子 さん



井上 和世 さん

もう一度文化の原点を考えようということで、神戸の芸術界の特集をしたいと思います。今回は美術家の方々に集って頂きましたが、今回はそのパート2ということで神戸のクラシック音楽のお話しをおうかがいしたいと思っています。最初にみなさんの活動の状況をお話し下さい。

延原 大阪では先日大阪クラブの200回目のマンズリーコンサートがありました。神戸では「風見鶏のコンサート」ですね。神戸に来てもう13年目になりますが、大阪と違うのはやはり外国の人が身近に住んでいて、国際都市を肌で感じることでですね。

北浦 昨年は神戸がロッテルダムと姉妹都市になってちょうど20周年ということで、向こうへ招かれて演奏会をしました。向こうの人は演奏が終わると、日本のように花束じゃなくて、バラの花を一輪持って来てくれるんです。それがかえって心暖まる思いで嬉しかったですね。

伊藤 今まで神戸と大阪を中心に20年間演奏してきて、東京でやったことはなかったんです。それが昨年チェコのヤナチェクカルテットが来日した時に、初めて東京文化会館で共演させてもらいました。ピアノも音響も素晴らしいので実に楽しかったですね。ところがその一週間前に同じくチェコのタリーリッヒカルテットと神戸文化ホールで演奏したんですが、あそこのピアノは老朽化してガタガタ。あれは絶対に買い替えるべきですよ。

井上 私はその東京文化会館の小ホールで、2月27日にリサイタルをするんです。東京では過去3回演奏してはるんですが、結婚してから6年間東京でやっていないので、行ったら拒絶されるんじゃないかといううちよっと怖い気もしているんです。

松本 昨年は学校を辞めて時間があつたこともあって、東京、大阪、神戸の3カ所で歌いました。まず東京ではバリオホールという音楽専用のホールで歌ったんですが、ここは素晴らしいですね。神戸では市立博物館でやりました。音楽専用ホールではありませんが、なかなかムードはありましたよ。それから大阪の厚生年金会館

です。僕の場合、神戸のムードに慣れてしまっているせいか、大阪などでやると勉強の発表の場という感じになって、ちょっとしんどいですね。やはり神戸でやるのが一番楽しい。

中西 昨年は2つの大きな仕事をしました。まず夏に西宮で「紋左衛門物語」という民話をもとにしたオペラの上演。それから秋には神戸文化ホールでオーケストラ用の曲の発表会を行いました。また今年の予定としては、10月30日に西宮のアメリカンホールで開催される兵庫県国民文化祭の合唱部門の中でオペラをやること。6月12日は作曲家グループの「たにしの会」で童謡のミニコンサート開催。また12月には作品の発表会もやります。

安芸 去年は、まず6月には「魔弾の射手」に出演。8月は九州の霧島国際音楽祭で「夕鶴」。10月には「ラ・ボエーム」。12月には神戸文化ホールでオペラの「信太妻」をやったんですが、この時はホールにオーケストラピットがなくてびっくりしましたね。また今年の予定は、6月の「カルメン」出演と、7月の神戸市立博物館でのリサイタルが決まっています。またそれに先立って3、4月に学校の休みをねらってスペインへ歌曲の勉強をしに行こうとも思っているんです。もちろんそれを盛り込んだりリサイタルも11月に計画しています。

さつきも話に出ましたが、神戸のお客さんは本当に暖かいですね。市立博物館のリサイタルでは、ぜひお客さんに語りかけるように歌いたいですね。

延原 昨年はすごく旅行が多かったですね。まずロンドンのクイーンエリザベスホールでしょ、それからベルリン市制70周年のイベントに参加したり、その周辺の地域を回ったり。またヨーロッパから帰ってからは韓国ソウルの「インターナショナルフェスティバル」にも参加しました。実はこのフェスティバルに日本の団体が参加するのは初めてなんです。今回は我々の他にアメリカやフランスなども来ていましたが、実にいい感じのコミュニケーションができましたね。演奏会の最後には会場の

みんなで韓国民謡の大合唱をしたんですが、向こうの人は一般のお客さんでも実に歌がうまい。韓国は歌のレベルが高いですよ。まあ、最高の親善になりましたね。

その時思ったんですが、やはりお客さんを楽しませる舞台でなきゃだめだと思う。日本の場合、ただ音楽学校で勉強したことを発表するだけという感じでしょ。エンターテイメントがないんですよ。ヨーロッパの音楽家にはそれがあがる。日本の音楽教育は、楽しんで楽しませたりすることを教えないでしょ、だから「音楽が好きで入学して、嫌いになって卒業する」ということになる(笑)。その点、松本さんのステージには彼の生きざまからにじみ出たエンターテイメントがある。だからファンがつくんですよ。

松本 僕もここでは評価していただいてますが、声楽の専門家諸氏にはあまり評価されていないんです(笑)。でもそれでいいんですよ。

ステージをやる上で大切なのは、演奏家とお客さんとの接点を作っていくこと。つまり、一般の人にも演奏家になってもらうことです。そのために「熟女塾」をやっているんですが、参加者に聞いてみると、案外日本のカラオケよりイタリアの古典の方が歌いやすいというわけです。それで一度歌ってみると、今度それを聞いた時に歌う以前と全然違って聞こえるという。結局それが演奏に参加するということであり、クラシックに入っていくための一番の近道なんです。

—— さつきのバラ一輪の話などを聞くと、ヨーロッパでは聞き手にもエンターテイメントがあるという感じがしますね。

北浦 向こうの子供は遊びでクラシックを演奏してますよ。だから小さい時から生活の一部になっているんですよ。

子供と言えば、この5月にファミリアが「このとりコンサート」という胎教コンサートをやるんです。私も参加するんですよ。

延原 ヨーロッパのお客さんはみんな大人ですよ。演奏家に乗せるのが実にうまい。昔は日本でも歌舞伎の観衆などはうまかったですが今はだめですね。それに向こうの人はあまり批評をしないでしょ。面白くないや帰るだけですよ(笑)。

中西 そう、そもそも演奏会に行く動機が「楽しみたい」からですかね。

延原 そういう意味で東京の観客は世界で最も厳しい批評家だと言われている。それに向こうの人はテレビで見るのをあまり好まない。行くのが楽しいんですね。

充実した音楽ホールと情報センターのネットワークを

伊藤 実は、昨年共演したヤナチエコから「チエコでやらないか」という手紙が来たんです。最初は驚きましたよ。なにしろヤナチエコと言えば世界の五指に入るカルテットですからね。でも向こうの人はフリーリングさえ合えば、私のような無名のピアニストでも声をかけてくれるんです。そういう面では実にフリーですね。それまで持っていた向こうの人に対する固いカラが破れたような思いがしました。

延原 東洋と西洋では違ってあたり前という気もします。向こうの演奏家はそれで食べている人が多いから、舞台上に上っているのが自然なんですよね。でも日本は違う。日本の場合、文化は民間でやって下さい、という姿勢があるから、まだまだそれで生活している人は少ないんです。そういう意味では日本の状況は特殊ですよ。

—— 文楽など一部国が保護している文化もありますすが、それはそれで弊害が出ていますしね。

松本 中西先生は学校の校長をしながら作曲の仕事なさっているわけですが、いかがですか。

中西 実はずっとヒマかと思ってたんですが、とんでもないですね。作曲には雰囲気作りが大切ですが、校長室じゃねえ(笑)。

安芸 同じ声楽仲間結婚している人がいるんですが、

彼女のご主人が優しい人で、「君の練習のために毎日夜7時から9時まで、テレビも何もかも止めて静かにしてあげる」って言うわけです。一見理解しているようですが、実は全然本質がわかってないんですね。毎日同じ時間が空いても練習なんてできるものじゃない。結局一般の人の理解なんてその程度なんですね。

延原 日本ほど音楽学校出身者の多い国も珍しいのにそういう理解はまだですかね。

安芸 日本の音楽学校は卒業したらそれで終わりでしょう。卒業後も音楽を続けてたら、「まだやってんの？」なんて言われる(笑)。

延原 ところで神戸は音楽よりも美術の方が先行していると思いませんか。コンサートにしても大阪の方が多い。安芸 大阪の人はケチですよ。神戸でやると言っても来てくれない。

延原 音楽に関しては神戸は面白くないというイメージがあるんでしょうね。外人タレントのコンサートだって大阪ではやるが神戸は避けるでしょう。

伊藤 ホールの問題もあると思います。大阪のシンフォニーホールなんか行くだけでも楽しいですが、神戸にはそういう何かを期待させる音楽ホールがないからですよ。中西 最近作曲家の個展のようなコンサートがよく開かれていますね。ルナホールやベガホールなどが利用されているようですが、そういった適当な大きさのホールが神戸にはないですね。

松本 東京には座席数を変えられるホールがあります。伊藤 企業が持っている小さなホールも音楽には使いにくいでしょう。

延原 350〜400ぐらいのキャパのホールが神戸にも欲しい。—— 今度の新市庁舎にはぜひ作って欲しいですね。

延原 まあ、神戸は商売上手だから、ホールのような採算の合わないものは作らないかな(笑)。

伊藤 イメージアップにはなりませんよ。

延原 ただ、演奏家としてはどんな場所でもやらなきゃ

いけないというのも事実です。使いわけをしてね。もちろん、最低一つは神戸にホールを作るというのが前提です。すけどね。

伊藤 音楽専用の小ホールが欲しいというのは、もう10年も前から言っているんですが実現しないですね。ぜひ世界に誇れるものを作って欲しい。地方都市に行くくと、田んぼの中にけっこういいホールが建っていてびっくりすることがありますよ。

松本 神戸は黒字なんだから作るべきですよ。できないはずはない。文化ホールの側に作るのもいい。

延原 ホールだけというのが無理ならビルの中でもいい場所はどこがいいですか。

延原 三宮中央区役所の辺とか、神戸駅の近くとか、交通の便利などでもけっこうスペースはありますよ。

—— ところで、コンサートの開演時間は今ほとんどが6時でしょ。せめて7時にしないと、会社帰りのお客さんには早すぎるんじゃないですか。

延原 そうですすね。これもスタッフの労働上の問題などがあるんですが、なんとか改善しないとね。

—— 神戸は演奏活動の場としてはどうですか。

松本 大阪にはたくさん賞がありますが、神戸には市が主催している賞がありません。あればムードが出てくるんですが。

延原 例えば賞を作るにしても、大阪が秋にやるんだから神戸は春にやるとか、京阪神でバランスを考えてやるべきですね。そうすれば長続きしますよ。賞は長く続かないや意味ないですからね。

松本 それから外人タレントが多すぎる。それで人が来ればいいが来ないでしょ。

伊藤 何といってもホールと、備え付けの楽器です。ガタガタだと外に向かってもかっこ悪いですよ。今度スタンウェイピアノの展示販売所が神戸にできて、貸し出しもしてくれそうですので利用したいですね。

中西 ジャズストリーートのクラシック版というのはど

うですか。

松本 それは面白い。クラシックの食べ歩きですすね。

—— 市民サイドでいろいろ企画したいですすね。最後に今後の抱負や提案などありますか。

中西 以前から考えているんですが、神戸周辺に伝わる民話をもとにした歌を作りたい。そうすれば地元のPRにもなります。

伊藤 それはいいですね。歌は心を交流する一番身近な方法ですから。小さい頃覚えた歌はいつまでも忘れぬい。そういう歌ができれば、地元の人にもふるさと神戸に対する愛着が増すと思いますすね。

松本 オペラにしても本場の人にはかなわないし、生き残る道は創作オペラしかない。神戸をテーマにした創作オペラを作りたいですすね。

延原 神戸は外から見ると文化的な可能性が非常に高いわけです。市も商売がうまいしね。にもかかわらず、中の人間のアイデア不足なのか、伸びそうで伸びない。一つは、神戸の人って飽きっぽいんですすね。だから外部からいろんな音楽家を集めてきて、新しいものをどんどんぶつけていけば活性化すると思う。これが21世紀の神戸にとって最も必要なことですよ。

—— ニューオリエンタルホテルの劇場が完成すれば、また新しい音楽家が呼べるでしょうね。

井上 昨年、姫路の美術館でリサイトをしたんですが、向こうでは市が新聞に広告を出して人を集めているんです。神戸市もそうすればたくさん人が来ると思う。

延原 演奏家がチラシを配ってたんじゃどうしようもない(笑)。

—— それはいいアイデアですすね。新聞やTV、ラジオなどの情報センターが音楽ホールと結びついてPRをすれば、神戸の音楽シーンも大きく飛躍するでしょうね。

今後もそういうアイデアをどんどん提案していきたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。

(プラン・ドゥ・プランにて)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

株式会社オールスタイル総本社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6丁目 5-1
TEL (078) 302-3311





タウン誌のメンバーが全員集合／真中の列の左から2人目から右へ庄山副会長、角田会長、小泉理事長。

★日本タウン誌協会設立

日本列島を縦断 さらに広がる輪

二月十八日(木)、東京・銀座東武ホテルで「日本タウン誌協会」の設立総会が開かれた。

「地方の時代」が喧伝されてから久しくなるが、地域文化の担い手としてタウン誌のもつ役割が最近とみに高く評価されて来ている。今回の日本タウン誌協会の設立は、いわば「一国一城」意識の強いタウン誌が、個々の殻を破り、時代の急激な変化、時代の多様な要請に応えるべく、大同団結をしたものである。

それは、(一)全国の主要都市を結ぶタウン誌のネットワークづくり、(二)情報交換、研究交流など研修体制の確立、(三)「街づくり」「街おこし」などへの積極的提案、(四)タウン誌の体質の強化と地位の確立などをめざしている。無論、かような組織が降って湧いて結成されたわけではない。過去十年間、年一回、各地で「全国タウン誌会議」が開催されて来たが(第四回を小誌が神戸で主催)その中で全国ネットワークの必要性が提起され、満を持しての発足となった次第である。

設立総会には、北は旭川(北海道)から南は那覇(沖縄)までの69タウン誌が参加、文字通りに日本列島を縦断する一大ネットワークが誕生した。

当日の総会では、役員も決定。会長・角田吉博(月刊武州路・浦和市)、副会長・庄山章信(月刊フェニックス・福井市)、理事長・小泉康夫(月刊神戸っ子)、事務局長・清水信夫(マイ奈良・奈良市)各氏が選出され、事務局を小誌編集室におくこととなった。

総会の後の記者会見では、今回の日本タウン誌協会結成への期待感から、在京の新聞社など多数の取材陣の参

★日本タウン誌協会会員★

郷土誌 あさひかわ (旭川)	モアあまがさき (尼崎)
ふるさと十勝 (帯広)	明石新聞 (明石)
会津嶺 (あいずね) (会津若松)	上郡 (かみごおり) 民報 (赤穂)
月刊 街こおりやま (郡山)	マイ奈良 (奈良)
月刊 ジョイフル (北茨城)	MONTHLY アガサス (和歌山)
タウン誌 うつのみや (宇都宮)	隔月刊 因島ジャーナル (因島)
みにむ (足利)	月刊 ウェーブ (下関)
月刊 うずまっこ (栃木)	月刊 NICE TOWN (高松)
月刊 上州路 (高崎)	アットホームニュース
月刊 武州路 (浦和)	幸手 (幸手)
月刊 いちかわ (市川)	タウンライフにはま (新居浜)
月刊 ばすけっと (市川)	新郷土 (佐賀)
月刊 my ふなばし (船橋)	月刊 L.L (宮崎)
月刊 江戸川春秋 (松戸)	郷土雑誌 かごしま (鹿児島)
月刊 とも (度毛) (野田)	月刊 タウン情報かごしま (鹿児島)
月刊 おとなりさん (東京)	週刊 レキオ (郡那)
月刊 たかしまだいら (東京)	月刊 神戸っ子 (神戸)
月刊 日本橋 (東京)	月刊 グットラック
ハイ! 石神井公園 (東京)	TOYAMA (富山)
月刊 光が丘 (東京)	ヨコハマコレクション (横浜)
月刊 ぼんじゅうる (東京)	KANDA ルネッサンス (東京)
月刊 えくてびあん (立川)	新宿 Magazine (東京)
週刊 きちじょうじ (武蔵野)	あおもり草紙 (青森)
月刊 ちょうふ・とーく (調布)	月刊 Plenty (町田)
天竺南蛮情報 (調布)	アイ・ラブかながわ (横浜)
月刊 タウン情報	ぎんざ NOW (東京)
My City ながおか (長岡)	せんとらる江戸川 (東京)
月刊 PHOENIX (福井)	シティ情報 月刊くるめ (久留米)
my 信州 (長野)	月刊 りんかい春秋 (苦小牧)
月刊 タウン情報 いいだ (飯田)	月刊 SENBA (大阪)
季刊 わがまち (富士宮)	季刊 &α (新潟)
タウン誌 知多っ子 (半田)	Bird's Eye (吹田)
しんぶる (伊勢)	月刊 みと (水戸)
うーばん (大津)	月刊 おあしす (金沢)
御堂筋 (大阪)	鳥栖新聞 (鳥栖)
月刊 TOWN はりま (姫路)	

加を見、翌日の新聞報道とともに、東京をはじめ様々などころから小誌へ問い合わせが殺到した。

日本タウン誌協会では、当面、次の諸項目を事業計画にあげている。

A、日本タウン誌会議の開催。

内外から有識者を招き、地域活性化やニューメディアなどについての知識を深める。

B、機関誌「タウン誌ネットワーク」(仮称)の発行。年四回機関誌を発行。会員の提案発表や意見交換の場



設立総会での模様

とする。内外から地域メディアに関する最新情報を記事取材する。

C、人材育成のためのセミナーなどの開催。会員各社のため、経営・製作技術および関連事業などへの研鑽の場としてセミナーなどを開催する。

D、会員の共同取材による全国出版。

E、産地直送や観光情報など地域で発生する情報の全国ネット化。

F、公共体、企業への情報提供などの受け皿とする。

G、地域文化振興のための提言・協力。

H、「街おこし」人材バンクの設置など。

今後、同会は引き続き各地のタウン誌に入会を働きかけるとともに、積極的な対外活動を展開して行く。

今、タウン誌の新しい時代が始まった。